（財）九州環境管理協会創立 40 周年に寄せて

元理事長　**髙　島　良　正**

九州環境管理協会（略称「九環協」）は、任意団体の九州水質分析研究会を前身として、昭和 46 年 10 月に発足した財団法人である。当時私はまだ九大理学部教授で、そのようなものに関心は薄かったが、創立に主要な役割を果たされた福岡教育大の細川巌先生や九大の竹下健次郎先生の誘いで、同協会常任理事に就任した。しかし、その頃九大では評議員や理学部長の要職にあり、九環協の仕事は何もできず、事務局長の小林さんと技術部長の白石さんが実務指導をされていた。平成 5 年 3 月、九大を定年退職した後は、福岡大学の講師を務めるだけとなり、時間的余裕ができたので、九環協副理事長となった。ところが理事長の細川先生が病気で休まれ、復帰されるまでと思っていた理事長代理も、平成 7 年正月に先生が他界され、7 年 6 月から私が理事長職を引き受けざるを得なくなった。

常任理事に就任した昭和 49 年当時は職員数 20 人足らずの小さい団体で知名度もなかったので、自らも外部から環境業務を導入しなければならなかった。

当初、九州では公害の原点といわれる水俣病問題が起き、それに対処する分析機関が必要であった。同様に北九州でも工業地帯の排水問題が生じ、一般の人々の環境問題に対する意識が非常に高くなった。

私が本格的に九環協の経営や業務に携わるようになったのは、平成5年3月九大を退官してからである。それまでも長崎県の原子力船（むつ）関係で技術顧問や、通産局の九州工業地域防災対策推進委員会委員をやってはいたが、ごく短期間の一時的業務であった。しかし、九州電力が原子力発電所を初めて佐賀県玄海町に、次に鹿児島県川内市に建設することになり、事前調査から現在の運転状況の報告を聞く会議までずっと原子力利用に係わっている。原子力発電所の場合は一般の工場と違い、周辺の水や動植物の放射性物質量の測定が必要である。しかしその量は極めて低レベルであるから、一般の分析機関ではできない部分がある。そこで米国留学で修得した低レベル放射能測定法が役立つことになった。低レベル放射能測定は通常の空気中とか水中にある天然放射能より更に低いレベルの放射能を測定するもので ^{14}C 年代測定に利用されていた。そのような仕事をしてきた自分にとっては、少し工夫すれば、自然に生育する動植物中の放射能測定は比較的容易なことであった。この頃からは、エネルギー分野において原子力発電の比重が高まることは明らかであったので、九環協に別棟のＲＩ実験室を建て、種々の放射線測定装置を設置した。そして今でも九環協の一部門として、国内だけでなく海外からの依頼分析に応えている。

九環協は創立以来全職員がどんな業務にも創意工夫して対応する気風がある。今後とも長年の間には好・不況など立ちはだかる壁があると考えられるが、誇りをもって乗り越え、九環協の一層の発展を図られんことを切望して止まない。